

第1回野島活性化検討委員会議事録

■開催場所・日時

令和8年6月15日（月） 14時45分から16時00分まで
野島漁村センター 大会議室

■次第

- 1 開会
- 2 教育部長あいさつ
- 3 議題
 - (1) 野島活性化検討委員会について
 - (2) 野島活性化基本構想の概要について
 - (3) 取組内容と進捗状況について
 - (4) 意見交換について
- 4 その他
- 5 閉会

■出席者名簿（敬称略）

所属	役職名	氏名
野島地域自治会連合会	会長	松本 和郎
防府市立野島小・中学校	校長	江頭 克友
一般社団法人防府観光コンベンション協会	専務局長	杉江 純一
防府商工会議所	専務理事	松田 和彦
防府市社会福祉協議会	常務理事	熊野 博之
防府市市民活動支援センター	理事	山野 悦子
防府市総合政策部	部次長	田村 裕之
防府市文化スポーツ観光交流部	部次長	本間 良寛
防府市福祉部	部次長	北村 康芳
防府市産業振興部	部次長	小田 至郎
防府市教育委員会教育部	部次長	松田 伸一
地域おこし協力隊（野島地域）		播磨 意在

（開会）

教育部長あいさつ

現地をご覧のとおり、人口の減少、高齢化、児童生徒数の減少と早急な取組の検討が必要とされているため、昨年度、検討委員会委員のご協力のもとで、野島活性化基本構想を策定した。

今年度からは基本構想で掲げた目標の実現に向けて、具体的な取組を行うので、皆様の幅広い知見をもとに、忌憚のないご意見をいただきたい。

議題（野島活性化検討委員会設置要綱第5条により委員長が進行）

議題1 野島活性化検討委員会について

【事務局説明】

本委員会の活動経緯、野島活性化基本構想の目指すべき姿について説明。

また、今年度の本委員会は、野島活性化基本構想の各取組の事業進捗の管理や各委員の様々な分野での知見をもとに、ご意見をいただきつつ、今後の施策に反映していく旨を説明。

———質疑・応答———

(意見なし)

議題2 野島活性化基本構想の概要について

【事務局説明】

資料1をもとに野島活性化基本構想の概要について説明。

———質疑・応答———

(意見なし)

議題3 取組内容と進捗状況について

【事務局説明】

資料2をもとに、野島活性化基本構想の各種取組について、スケジュールと取組内容を説明。

———質疑・応答———

【A委員】「住みたい人」への支援で、野島の空き家の棟数等の把握はできているのか。

【事務局】都市計画課の空き家対策室で現状把握をしている。

【A委員】商売をやりたいなどの問い合わせをしたら、対応してくれるのか。

【事務局】空き家対策室において、所有者に対する意向調査の際、空き家を処分したいなどの意思確認が取れた方については、窓口で開示できる体制を整えていると聞いている。

【B委員】野島診療所も、学校に移転という考え方でよいのか？

【事務局】漁村センターの中に入っているものは、高台の方に移転を検討することになる。

【B委員】学校に移転するときには、高齢者が多いのでバリアフリーには配慮をして欲しい。

【事務局】検討する。

【C委員】野島活性化基本構想の3ページの(2)に茜島シーサイドスクールの児童生徒数の推移について、コロナ禍前後に大きな変動があるが、その理由は何か。

【委員長】全国放送のテレビ放映後、瞬間的に増えたがそれが原因にあたるかどうかは不明。

【C委員】茜島シーサイドスクールの魅力向上する上で、推移が参考になると思い、質問をした。

【委員長】去年から今年で児童生徒が増えたことに関する取組について教えてほしい。

【事務局】令和7年度までは、防府市立小・中学校からの転入という者だけだったが、令和8年度の児童生徒受け入れ全県化に向けて、令和7年度から、県内全域の小・中学校からの募集を開始した。茜島シーサイドスクールの全県展開を考えているということを県教委から各市町教委に周知をした後、本市の方から各市町教育委員会宛に文書を発送して、募集し、現在に至った。令和7年度の児童生徒は5名で、2名が中学校を卒業し、新たに8名が加わり、合計11名となった。

【D委員】白芋の話は、現在誰か島民の方がやっていたらいいのかな？

【E委員】白芋に加え、自家消費用の野菜を合わせて作られている方が1名いらっしゃる。

【A委員】地域交流イベントの目的と対象者をどう考えているか。

【事務局】地域交流イベントは、多世代としているので、こどもから高齢者までの参加が理想である。イベントを考えるにあたって、教育委員会で実施し、学校を核とした島づくりを目指しているため、茜島シーサイドスクールを巻き込んでやっていきたいと考えている。取り組み始めたばかりではあるが、学校の協力などを調整しながら、商工高校や県立大学と協力し、多世代で実施できるようなイベントを模索中である。最終的には島全体の活性化に結びつけたい。

【F委員】こどもたちは地域の人と交流するのをすごく楽しみにしている。地域の方も、こどもがか

わいくて仕方ない。こどもたちは野島に笑顔が増えるアイディアを出して、1つでも2つでも実現できたらいいなと、いろいろな企画をして、島の人と交流をしたいと考えている。

【A委員】結局、お子さんたちが答えを持っていると思う。コミュニケーション能力は非常に重要なので、それを育てるというのも茜島シーサイドスクールの魅力の1つ。そういうのもイベントを組んでいけばいいと思う。

【B委員】5年位前に、8月8日を野島の日にしているが、それに合わせたイベントはあるのか。

【事務局】8月8日にイベントを開催していたが、近年の酷暑により、秋口にずらして開催している。

【A委員】「宿泊ができる学校づくり」は、民泊、民間住宅は活用できないか？コミュニケーションのため、お年寄りの家に宿泊というのは、将来的に難しいのか。

【事務局】昔は時化で帰れなかった生徒を島民の方が受け入れて泊めていた時期もあったそうだが、現在はご高齢で実施が難しくなっている。

【A委員】産業的なものを起こせるとよい。それは要するに宿泊業という形で、そこに生徒さんが寮のように、そこに家賃収入が入るような仕組みがあるとすごくいいと思う。

【事務局】参考にしたい。

【G委員】SNSや特設ホームページ運営をしているということだが、SNSの媒体は何か。

【E委員】インスタグラム。

【G委員】インスタグラムであれば、フォロワーや見た人の分析で特徴はあるか。

【E委員】そもそもの数が少ないため、分析は難しいが、野島の風景、情景を見ている方が多い。

【G委員】その中で、やりとりはあるか。

【E委員】今のところはない。

(4) 意見交換について

本市では重点的に3年間で国の交付金を活用しつつ、地域交流イベントや地域交流広場の整備を実施しているが、基本構想の取組内容や今後の活性化に向けて、忌憚のない意見を頂戴したい。

———質疑・応答———

【B委員】野島へ行くにあたり、船に乗るまでの交通手段がいるが、大半の方は車で来ている。駐車場が、15台分ほどあるが拡張を検討してもいいのではないか。

【G委員】野島の教員住宅（男子寮・家族寮）は、防府市の所有か。

【事務局】そのとおり。

【G委員】見た感じ古いが、住まれない理由はあるのか。

【事務局】寮は、山側にあるので、虫が1つの原因ではないか。また、少し奥にあり、暗いことから、住宅が密集しているようなところに、住まれる傾向にあるのではなかと考えている。

【G委員】今後、入居予定はないのか。

【事務局】先生にもお話をお伺いしたが、多分住むことはないのではないかと聞いている。

【G委員】あの状態で置いとくより、何か他の活用を検討したり、解体したり、売却したりというようなやり方もあるのではないか。有効に活用した方がいい。

【H委員】小・中学校の全寮制は、これまで、検討はされているか。

【事務局】具体的に話に上がったことはない。家から通えずに、寮に入ることになると、特に小学生は気にすることが懸念される。

【H委員】そこを選択できるとか、何か抜本的に変えることで、行きたくなる学校であるとか、それはこどもに限らず、先生も赴任したくなる学校になると思う。隠岐の島の海士町に行ったことがあるが、そこは高校で先生も、こどもさんも住みたくなるような取組をしていた。

【D委員】防府市の漁業は、かなり厳しい状況にあり、イベントをするときに漁業の振興の視点もあ

ったら、島民とより繋がりが生まれると思う。地域未来交付金で漁業の振興に使えるのがあればよいと思う。

【事務局】K P I とか事業設計ができれば、交付金の活用は可能だが、設計を各課で行うことになる。

【B 委員】漁業の話の関連で、漁業自体で人を呼ぶのはハードルが高いが、こどもたちの釣り大会などをやってみるのもよいのではないか。

【事務局】茜島シーサイドスクールでは釣り体験が授業である。先日も釣り体験の授業があった。

【B 委員】了解した。

【G 委員】浜市は今やってないのか。

【B 委員】7、8 年ぐらいできてない。

【G 委員】やめたのか。

【事務局】野島の方が高齢になって、開催が難しくなったと聞いている。

【I 委員】漁師がいない。

【C 委員】今、漁師さんは何人ぐらいいるのか。

【I 委員】4、5 人。組合員が 20 人くらい。

【A 委員】交流イベントで、商工や県立大学の生徒さんで島の魅力や島づくりについて、ワークショップで生徒さんの声や若い世代の声も聴くと、新しい気づきがあると思う。島民の方も入ってもらって一番いい。野島の強みは我々が作っている強みであって、本来、こどもたち、先生、島民の方が思っている強みっていうのはまた違う。目の前の 4 年 5 年後は、描けると思うが、10 年後 20 年後を思って、計画を作っていないといけない。コミュニケーションは大事だと思うので、ワークショップを検討したらいいと思う。

【事務局】検討したい。

【C 委員】角寿司とか野島豆腐とか伝統料理があったが、伝承している人はいるのか。

【I 委員】いる。

【C 委員】伝統があるので、地元の人を巻き込んで、小さくてもいいから、やったらいい。生徒さんの方も見てもらいながら、「野島のならではの」のものをやらないと、新しいものを外から持ってきてても定着しない。まだ、伝承できる可能性があるので、そこからイベントで広げていって、学生さん、地元の人を巻き込んでやらないと、野島の特徴も出ないと思う。地元の伝承は、一番大事なと思うので、クローズアップして、磨き上げし、しっかりした考えを持ったイベントにしないと続かない。

【I 委員】丘の上に展望台があったら、来る人が増えるかもしれない。

【J 委員】何か学校の中と校舎本体と合わせてやるということではなくて、出張所の機能を持っていくのか。また、運動場が狭いが芝生広場が整備されたら授業で使うか。

【事務局】集約化の件は、学校は活動中のため、空き教室を活用しつつ、集約化することを検討する。既存の施設も活用しつつ、足りない部分を増築することを検討する。学校施設の教室の最適化を検討しながら、体育館の 1 階と体育倉庫や古いトイレがあるあたりに増築を検討している。元々運動場は広くはないが、芝生広場を整備後は、授業での活用は可能である。

【J 委員】地元の人が参加するイベントは本当に理想だが、実際、高齢化がなり進んできている。マンパワーがなくて、浜市をはじめ、色んなことができなくなった現実もあると思うので、その辺りが課題だ。島外から、イベントのときだけやってくるという感じになると長続きしないと思う。

(閉会)